



外国文献紹介

MRI 画像を用いたクッシング病患者における海綿静脈洞浸潤の予測について

Mastorakos P et al : Prediction of cavernous sinus invasion in patients with Cushing's disease by magnetic resonance imaging. J Neurosurg 130 : 1593-1598, 2019

筆者らは、生化学的にクッシング病と診断され、内視鏡を用いて経蝶形骨洞的に下垂体病変を切除した症例の中で、病変の大きさが 20 mm 未満の症例 115 例の MRI について後ろ向き調査を行い、海綿静脈洞浸潤 (CSI) の有無に関して、手術所見と比較検討した。MRI (冠状断像) の読影の際に、海綿静脈洞に隣接する下垂体腺腫の形が三角形をしているものをセイル・サイン (SS) とし、CSI ありとした。その結果、115 例中 23 例に SS がみられたが、そのうちの 91% で CSI が認められた。CSI を予測する手段として SS を用いた場合の感度は 0.7、特異度は 0.98 であった。そして、海綿静脈洞に隣接したクッシング病の腺腫で SS がみられる場合には、CSI が存在する可能性が高いと考えられ、SS は術式の決定や放射線治療計画の必要性を検討するうえで有用であると述べている。

瀬戸一彦